

## コシアブラなどの山菜、セシウム基準値超続出 直売所などからの購入は危険

伊藤久雄（認定NPO法人まちぼっと理事）

6月1日の東京新聞はセシウム基準値超えの山菜が流通していることを伝え、注意を促している。実は6日前の新潟日報でも同様の報道を行っている。直売所やインターネットなどでの購入は注意が必要だ。

また後段の東京新聞の記事にあるように、国会で規制緩和にすすみかねないような議論もされている。同じ東京新聞（2016年4月26日）に、6月1日の記事で取材された木村真三・独協医科大准教授との同行記事がある。そこには次のような記載がある。

『春、山菜の季節に元の暮らしに戻り、春の恵みを食す。収穫の秋、たわわに実る野生の果物やキノコを食する。だが、そこは事故前の里ではない。私は、今からが危険な時期だと警戒する。最も危険なのは、人々の放射能への意識が薄れてくる、今なのだ。』

山菜は美味だ。福島県会津地方や山形、宮城、岩手、新潟の各県の山菜は放射能汚染の危険があることを十分認識すべきだ。

東京新聞 6月1日

ヤブオク、メルカリなどで放射性セシウム基準値超えの山菜出回る

東京電力福島第一原発事故後の食品基準（1キロ当たり100ベクレル）を超える放射性セシウムを含む山菜コシアブラが、直売所やインターネットで売られていたことが、食品の汚染状況を調べている木村真三・独協医科大准教授（放射線衛生学）と福島市のNPO法人「ふくしま30年プロジェクト」への取材で分かった。事故から九年過ぎても警戒が必要であることを示した。

木村氏は四月下旬以降、福島県会津地方や山形、宮城、岩手各県の直売所や道の駅で、コシアブラやコゴミ、ワラビ、原木シイタケなどを購入し、ゲルマニウム半導体検出器で8時間測定した。測り終えた35件のうち、仙台市内の直売所で購入した「秋田県産」表示のコシアブラから、基準値の2倍を超える1キロ当たり210ベクレルを検出した。

また、宮城県産のワラビが32ベクレル、コゴミが34ベクレル、山形県産の原木シイタケが42ベクレルなど14件で基準値以下のセシウムを検出した。他20件は不検出。

ふくしま30年プロジェクトも同時期に、ネットの個人売買サイト「メルカリ」と「ヤブオク！」で購入したコシアブラを測定。15件のうち、表示が山形県産の3件と宮城県産の1件で、基準値を超える109～163ベクレルを検出した。

コシアブラは山菜の中でもセシウムに汚染されやすい。出荷は福島県内のほとんどの市町村と宮城県の7市町で規制。山形県は北部の最上町だけで、秋田県では規制されていない

い。産地表示が正しければ、規制されていない地域のコシアブラが基準値を超えて汚染されていたことになる。

基準値超えのコシアブラが売られていた仙台市生活衛生課の佐藤晴彦係長は「売っていた事業所や出荷量などを調査中。採取地を特定できていない。店頭で売る食品は、年 200 件前後を検査している」と話した。林野庁の佐藤睦（まこと）・特用林産物安全推進指導官は「自治体が事実関係を調査中。結果により対応を考えたい」と答えた。（大野孝志）

東京新聞 6月1日

まだ警戒必要なのに…国会ではセシウム基準値緩和の議論

東京電力福島第一原発事故から 10 回目の山菜シーズン。出荷規制がかかっていない場所で採ったとされ、直売所やインターネットで売られていた山菜コシアブラから食品基準（1 キロ当たり 100 ベクレル）を超える放射性セシウムが検出された。いまだに警戒が必要なのに、国会では与党議員から基準緩和を促すような発言が出ている。（大野孝志）

「驚いた。しかもネット上で個人売買されている。原発から遠く、規制されていない場所だからと出品者は油断したか、汚染実態を甘く見たか…。福島市の NPO 法人「ふくしま 30 年プロジェクト」の阿部浩美副理事長（50）は調査結果にこう語る。

プロジェクトでは個人売買サイト「メルカリ」と「ヤフオク！」でコシアブラを買い、セシウムを測定した。すると四件が基準値を超えた。いずれも出荷規制がかかっていない地域で採れたとされていた。

両サイトには飲食物を出品できるが、賞味期限切れや要冷蔵の物など、安全や衛生面で問題がある物は禁止されている。そもそも汚染された山菜を売れば、食品衛生法違反となる。

旧ソ連・チェルノブイリ原発や福島第一原発の周辺で住民の被ばく状況を調査し続けている木村真三・独協医科大准教授の調査でも同様の結果が出た。

木村氏は 4 月下旬から、食べ物での内部被ばくを調べる手法の「マーケット・バスケット法」で山菜を調査。各県を車で回り、人口 10 万人以上の都市を中心に直売所や道の駅で山菜を購入。新型コロナウイルス対策で毎朝検温し、マスクや消毒を徹底した。

その山菜を大学の福島分室にあるゲルマニウム半導体検出器で測定。多くは基準値を下回るか不検出だった。しかし、出荷が規制されていない秋田県産と表示されたコシアブラから基準の二倍を超える 1 キロ当たり 210 ベクレルを検出した。

こんな状況なのに、国会では基準緩和に進みそうな質疑があった。

5 月 19 日の衆院復興特別委員会で、福島選出の根本匠元復興相（自民）が質問に立ち、現在の食品基準を「科学的、合理的か」と指摘。厳しすぎる基準で出荷規制が続いたために「一次産業は大きな打撃を受けている。政策判断の基本は科学がベースにあるべきだ」と訴えた。

福島選出の菅家（かんげ）一郎復興副大臣が「基準に関する科学的な検証の重要性は十分

理解している。被災地や関係者の意見も聞きながら議論したい」と答え、福島地元紙は「基準値を検証へ」と記事を掲載した。

復興庁に確認すると、井浦義典参事官が「副大臣は検証するとは明確に言っていない。元復興相も基準値を『見直せ』というわけではない。今後の方針は検討していくとしか言えない」と答えた。

木村氏は国会のやりとりを警戒する。「政府が基準緩和に向かえば、国民の被ばくリスクは高まる。直売所やネット上で売る人の被ばくへの意識が風化したから、基準値超えの品が出た。出荷する人に責任を持たせ、それを行政が監視するダブルチェックの体制が必要だ。風評被害を恐れるあまり真剣に調べない自治体も、実害が続いていることを認識するべきだ」

福島県飯館(いいたて)村で土や山菜の汚染状況を調べている伊藤延由(のぶよし)さん(76)は「農作物なら、田畑の土を管理して汚染を防げる。基準を緩和しても良いだろう。しかし、山菜やキノコはするべきではない。汚染は場所により濃淡が激しい。特に山は除染しておらず、汚染が残っている。山菜やキノコを流通させるなら、基準の緩和より全量測定した方がいい」と語った。

東京新聞 2016年4月26日

チェルノブイリ原発事故から30年 本紙が現地で測定 食の汚染今も

旧ソ連・チェルノブイリ原発事故から三十年を迎えた。いま現地の汚染はどうなっているのか。福島とチェルノブイリ周辺で住民の被ばく調査を続けている独協医科大学の木村真三准教授に同行し、現地を訪問。人々が暮らす村で、食べ物や土を採取して調べた。その結果から浮かび上がったのは、人々が被ばくの危険にさらされながら暮らし、これからも放射能汚染と闘い続けなければならないという厳しい現実だった。(文・大野孝志/写真・梅津忠之/CG・白井裕子/紙面構成・山川剛史、武田雄介)



(全文)

<https://genpatsu.tokyo-np.co.jp/page/detail/235>

(見出し)

「キノコ、娘に食べさせない」 生活の糧…野生の食材は高濃度

「危険は恵みの森に 福島も同じ」 独協医科大学・木村真三准教授（放射線衛生学）

(メモ) チェルノブイリ原発事故

新潟日報 5月25日

コシアブラ、セシウム基準値超続出 魚沼地域 汚染腐葉土から吸収か



県内の山などに生育する山菜のコシアブラ（県提供）

2011年の東京電力福島第1原発事故から9年がたった今春、魚沼地域で採取された山菜のコシアブラから、基準値（1キログラム当たり100ベクレル）を超える放射性セシウムが相次いで検出された。セシウムが付着した落ち葉が長い年月をかけて腐葉土になり、そこに根を張ったコシアブラが土中のセシウムを吸収したためとみられる。山菜シーズンが続いているため、県は注意を呼び掛けている。

県の調査では、津南町で採れたコシアブラから14年以降、セシウムが基準値を上下する高い水準で検出されている。一方、魚沼市のコシアブラは当初、低い値だったが、17年に基準値を超えて以降は高い値が続いている。近年は南魚沼市、湯沢町のものからも基準値を超える値が検出されている＝表参照＝。

### コシアブラの放射性セシウム検出状況

	2012年	13	14	15	16	17	18	19	20
津南町			171	140		120	110	96	94
魚沼市	10	34	25	43	4.6	150	140	120	110
南魚沼市						150	170	170	120
湯沢町							140	170	240

※数字はその年の最大値。単位はベクレル/kg。□部分は基準値（100ベクレル/kg）以上。空欄はデータなし

事故から長い年月がたっているながらも高い値が検出される理由について、県は「詳細は分かっていない」とする。その上で、セシウムが付着した落ち葉が原因の一つとの見方を示す。

セシウムが付着した落ち葉は年月とともに腐り、腐葉土になる。コシアブラは斜面の下など、落ち葉がたまりやすい場所に生育する性質があるため、汚染された腐葉土に根を張り、土中のセシウムを吸収した可能性が高いという。

県林政課は「落ち葉から腐葉土ができ、そこにコシアブラが根を張るまでに時間がかかる。それで今もセシウムの検出量が高いのではないか」と話す。

国はこの4市町で採れたコシアブラの出荷制限を指示しており、スーパーなどでは販売されていない。ただ、趣味の山菜採りで採取する人もいるため、県食品・流通課は「採取しても食べたり、人に譲ったりすることは控えてほしい」と呼び掛けている。